

# 保育のなかのテレビ



笠井佐智子

七月の梅雨明けの陽気しは強く、近づくと夏休みへの期待もあり、子どもたちは水遊びをしたり、それにつかうおもちゃを紙や木工で作っていた。誕生会にだす、浦島太郎の劇あそびも軌道にのってきて、もうそろそろお面作りや、背景かきの段階にきていた。それに例年いく水族館、N海岸への園外保育も近まっついて、何となく海への関心はただよっていた。そこで、テレビ番組―やどかり―によって、潮だまりの小動物、魚、藻をみることにした。

そこで私が予想したことは、やどかりはそうたやすく見れるものではないから、これで遊んだりはできないだろうけれど、自分をとりまく環境の中には、こんな種類の生きものがある、ということに対して興味を持ってくれればよいということだった。それにテレビの番組にでてくる魚や、海の様子をみて劇の小道具づくりのヒントを得るかもしれないし、うちわのようやはり絵に、海や小動物をテーマにとり上げ

てみたり、動きのリズム表現に展開できるかもしれないと考えた。視聴の二日後には、水族館や海へいくので、その期待とよろこびをますことも予想した。

○ 劇あそびをはじめて二、三日してからのこと（テレビ視聴二日前）再び浦島太郎の絵本をよんでやっているうちに、いろいろの魚のついた図鑑や絵本をとり出してきて、よんでくれたのまれた。絵本の中にひとでがでていた。ひとでは、T男が昨年海へいったといつて園に持ってきて皆でブクンブクン動くひとでを、めずらしそうにみたことがあったので、その時のことや、海、魚について、個々に経験したことを話し合った。やどかりも話題になった。やどかりは私がいつかN海岸へいったとき、たくさんみつけたので、いさかグロテスクだが愛嬌のある、この小さないきものを、子どもたちにみせたいと思って採集してきたことは

あった。『もうすぐN海岸へいくわね、  
いったら探してみましようよ』というど  
皆期待している様子だった。

○ 祝聴当日の主な保育活動は次のようだ  
った。

九・二〇

自由遊びの中でうちわづくり。作った人  
は、はんこで好きなもようをつけたり、  
クレヨンで絵をかいたりしていた。一つ  
や二つで物足りず、家族のぶんまでせ  
せと作っている子どもも幾人かいた。

一〇・二〇 集り

一〇・四〇

誕生会の出しものの年少組のリズム劇  
を皆でみる。年長組の前でするのははじ  
めてだったので、一通り終ってから部分  
的にくり返しているうち、祝聴の時間が  
きた。

一一・〇〇

大急ぎでテレビの部屋に入るとすでに  
はじまっていた。『あら何でしょうね、

貝だ！ あ、貝ひろいをしているのね』

子どもたちはまだざわめいていた。間も  
なく波の音がきこえてくると、スーッと

画面にひきこまれた。二人の記録者に主  
に子どもの発問を記録してもらい、録音  
によって、テレビの音声や総括的な関心、

興味をさぐってみることにした。それが  
次頁の表である。Aグループは、年長組

三六名の私のクラスと、年少組二二名で  
祝聴したもので、後半の雰囲気は、一部

の子どもを除いて集中度は低かったよう  
である。特に年少組の集団的独語が目立  
った。

Bグループは、年長組二三名のクラスだ  
けで再放送を祝聴したものを、参考まで  
にあげた。画面、二度目の「はだかの  
やどかり」（次頁参照）のあたりは特に  
集中度が高く、またこの記録以外に経験  
を思い出して友たち同士の話がよくき  
かれた。

祝聴後は『今度海へいったら探してみ

ましようね。どんなところにいるかし  
ら』といって、数日後に予定されている  
誕生会の準備に入った。

○ その翌日はまた暑かった。いつもより  
三〇分程くり上げて水着に着替えさせ、  
そのままの姿でリズム遊びをした。キャ  
ッキャッ大きさをしながら、ピアノや  
レコードに合せて貝拾いをしたり、親が  
に（二または三人で表現）や子がにな  
って遊んだ。

○ 次の日の園外保育は快晴に恵まれた。  
水族館では大きな海がめや、色とりどり  
の魚に喜んだ。ガラス器にへばりついて  
いたひとでもいたが皆きがついただろう  
か。砂浜では思う存分に遊んでいる合間  
に貝拾いなどして、幾人かがかにややど  
かりを探しているのをきいた。

○ 疲れ休みの翌日、園外保育のおもしろ  
かったことを中心に話し合ったとき、や  
どかりがとうとうみつからなかったね』  
という声のでていた。

画 面	音	声	Aグループ反応	Bグループ反応
	数は効果音楽のみの秒 M 音楽		( ) 中教師の言動と子どもの活動 へは集 中度の低いところ	
お姉さん	25	ここにちわ、おてつないでおねえさんよ、みんな元気が？		
貝を出す 大きい貝 小さい貝		お姉さんね、海へいって貝がら拾ってきたのよ ほーらたくさんあるでしょう、大きいのも小さいのや いろんな形があるでしょう 海へいったらね、こんな貝がたくさん落ちていたの、 お姉さん、はじめ気がつかないで海の方ばかり見ていたのよ	(身振り) 注意 頭をなでる	・この時部屋に入る ・身振りで注意 むかしの貝よ
海 子どもが何か探している	25	波の音 あ、あんな所で遊んでいる子が居るわ、何しているのかしら、何か探しているみたいよ 何探しているのかしら、貝がら拾っているんだわ うわー、いっぱい拾ってる	波に入ったら死ぬよ	その時貝がみつかるよ かめがでてくるなら もぐってみつげにゃい かん……
貝を拾っている	M	あ、あんな所で遊んでいる子があるわ あそこでは何かがあるのかしら	貝がらをさがしている うわー(口々にいう)	
手にいっぱい	↑	おや、水の中に、ほら、お星さまみたいなものが落ちて いるわ、それひとよ	でんでん虫のようだ、 食べられるの？ 貝ね？	星のようだったね ひとで ひとでよ ひとでやろ
汐だまりであそんでいる子2人 ひとで	25	こんどは何を拾ったのかな こんどは巻貝よ	おたまじゃくしがいる かも知れない タイヤモンドみたいね ひとでよ、赤ちゃんひ んどで赤ひとでーちがう 白ひとでよ 巻貝よ やどかりのようだよ ハーイやどかり(口々に いう)	人のおてではお星さま のようになつてないも 巻貝の中にやどかりが いるぞ やどかりとちがうよ やどかり やどかり！
手のひらの上の巻貝	15	みんなこれ何か知ってる？ みたことある人もいるでしょう これはやどかりよ	お母さんと一緒にみた 小さいのが赤ちゃん大 きいのがお父さんだも ん	やどかりやん ほらね
貝を砂の上におく	M	ここにやどかりが歩いているわ		
歩きだす	15	ここにも		
大小のやどかり 歩いている	20	これは貝かな		
	15	やっぱりやどかりだったのね		
	20	こんな小さなやどかりがいるわ	海水浴にいて拾おう っと (ほんどね)	引越すね してから そうよ…… やどかりとりにいこっ と
はだかのやどかり(1)	15	あんなものがいる、何かしら、くもかな 歩き廻って何しているのかしら	あんなにとでできて いる(身振りで注意) 地球のようだ(＃)	小さなやどかりばっか し
	30	あれ 貝の中に入ったわ、やっぱりやどかりのまねしてみたのね		
やどかり 貝がらの中に入る		あれ、ここにもいるわ ほんどにこれ、何なのかしら ねきみ、きみは何なの、えなんですってやどかり？ ほんど？うそでしょう、だってお家はいていないじ ゃないの、やどかりなら、ほらちゃんと貝の中に入 っているでしょう	ざるがに ざるがにじ ゃない (2, 3人でのい合う) やどかりだい！ ざるがにがいばいい たよ	へんなかにーやどかり よーやどかりとはちが うぞ ひっこしだもん やどかりやん
はだかのやどかり(2)	M	あ、はいったわ ↓ でもどうしてはだかであるいてるの、え、前に住んで いたうちが小さくなったから大きなうちさがしてる？ えー そうなの あれ あれ ひばってきてどうするの え？ 小さいけれどこっちの方がよきそうだって	もう1度でてこい 大きな家をさがしている	やどかりのひっこしや ん
貝がら引っぱ ってきて小さい方 へかわる	23	あ、いれかわったわ やどかり君って貝のおうちが小さくなったら、 いい貝がみつかったらお引越しをするのね でもやどかり君のお引越してずいぶん早いわね え？そのかわりの貝をみつけるのがたいへんだった？	あれ何？ 貝？ 二つある 四つある	
かにでてくる歩 いていく	60	あ かに だわ	あ、かによ かに～	
	20	あら どこへいくのかしら あんなところにいたわ	はきみで誰かきたらち んきぎるよ 足でふむと死ぬね	あれからおりてどうす るのだろうか かには横ばかりしかい かないよ
岩のかけではき みをうごかして いる	40	かになってこんな岩のところが好きなね		
	20	あ 何か食べているわ あらー あそこにも何か変なものが動いているわ かにだわ ダンスかな、それともかにの体操かしら このかには何か食べているわ きつと砂の中にかにの好きなものがあるのね	うわーはっは(苦笑い 出す)かにか泳(練習 している かにかがラジオ体操して いると おもしろいね 貝を食べている やどかりを黒いかにが やっつけている	あはは… あ、おかしい(笑い出 す) よし 擲り出そう またはいるとやろか ちがう、小さなはきみ ばいーこのくらい大き いものもあるもん(と手 でつくってみせる)
かにのそばへや どかりきたが、 にげる お姉さん	35	やどかりにげっていったわ、かには大きなはきみを持 ってこわいわね ひとで、やどかり、それからかに、みんなも海へいっ たらよーくみてみましょうね、やどかりの引越しや、 かにの体操がみられるかも知れないわよ		

うちわのはり絵に、海の景色（海の中・上）や小動物をつくるようしむけた。

女兒は喜んでかにやひとでをきっていた。魚も含めると、殆んどの子どもがテーマにそって表現した。

○ 二学期がはじまってから、夏休み中の母親の記録の中から子どもにわかりやすいもの、おもしろそうなものを選び、子どもの経験発表とあわせてよんでやったとき、貝やどかりを採って遊んだことがかいたのもあった。そのときの様子をきいたあと、—やどかり—視聴ののちにきかせたいと機会をまっていた次のような筋の童話をした。

—お月さまとはだかんぼうのやどかり—  
誰もいない夜の浜辺、波のくねったうねうねのようがきらきら光っている中で、波だけがざぶんざぶんとうたっている静かな月夜、もっくりもっくり動くちっちゃな黒いかたまり—それは、ほん

との自分の家を探しに行くはだかんぼうのやどかりの子だったのです。お月さまがとめるのもきかず砂の上を歩いて、ひとでのおじさんやさぎえのおばさんに自分の家をきくのですがわかりません。岩の上のぼつたら見つかるかもしれない、そう思っつつかれた足でたどりつくと、途端に波にのまれてしまいました。やど砂浜へもどされたとき、お月さまがやさしくいきました。

「早く巻貝の家へおかえり みんな都合よくできているんだよ、わがままいわないでね」こっくりうなずくとやどかりのぼうやは、わかめ林のそばにおいてきた巻貝の家をめざして歩きだしました。真夜中のお月さまだけがしている静かな砂浜のお話です—。

このお話をしたのは、やどかりを実際にみたり、触れたりすることのできなかった大部分の子どもたちに、ふしぎとおどろき

の気持ちをもって、生態の印象をうけとめてもらいたかったからである。前出の視聴中の反応では、このねらいは十分な効果上げえなかったとも考えられよう。しかし、たとえ、目を輝やかせ、吸いこまれるように画面に注意をむけたとしても、やはりこの童話だけはきかせたに違いないと思う。

また貝拾いやかにのリズム遊び、はり絵などの表現活動にも展開しているが、単にテレビ視聴の刺激だけではここまでのことはできなかつたと思う。

そして、もし園外保育に行っていなかったら、或るいは私や園児に、やどかりやかにの採集の機会があり、園内で二、三日なりとも飼育できた、というようなことになっていたら、もう少し違った保育の進め方をしただろうと思う。しかしあの巻貝のかわりに、成長するたびに入れ替りながら生きていく、ふしぎなやどかりの生態—これだけは間違いない子どもなりにわかっているかと思ふ。

（久留米幼稚園）